

5G SA消費者向けサービス

仏Orange、消費者向け5G SAサービス「5G+」を提供開始。特別プランも提供

Orangeは、2月に開始した法人向けプランに続き、消費者向けに5G SAサービス「5G+」を提供開始した。Orangeは、5G+を無料で利用可能とする一方、**5G+に特化した利用プランも提供**する。

5G+の特徴

- ①低遅延：数ミリ秒遅延が短縮
- ②Voice over NRによる5G通話
- ③セキュリティ強化：SIMカードの識別データ(IMSI)の暗号化

特別プラン：「Special Series 180 Go 5G+」

月額41ユーロでデータ容量が180GB、音声通話およびSMS/MMSが無制限で利用できる他、以下の特典を提供する。

- ①**専用の帯域幅**：5G網が混雑している場合でも、サービス品質とエンターテインメントの継続性を保証
- ②Netflix(広告付き)が6か月無料(以降月額5.99ユーロ)
- ③ChatGPT Plus12か月無料(以降月額23ユーロ)

5G+

ChatGPT Plus

NETFLIX

5G-Advanced消費者向けサービス

フィンランドElisa、世界初、5G-Aを用いた家庭向けインターネットを提供

Elisaは、2月末に5G-Advanced(5G-A)ネットワークを開設した。同社のCTOは「5G-Aの重要な推進要因の1つは、**AIの使用が増え、ネットワークにおける上り方向のデータ伝送量が増加していること**」と述べている。

利用エリア	<ul style="list-style-type: none">• 5G-Aは、首都圏と2都市で利用可能。• 春には更に拡大し、今後数年間でフィンランド全土で提供予定。
対応サービス	<ul style="list-style-type: none">• 家庭用インターネット。• 春には、モバイル、企業のオフィス、リモートワーク向けサービスを提供予定。
メリット	<ul style="list-style-type: none">• アップロード速度を以前の技術の数倍に高速化、ダウンロード速度も向上。• 在宅勤務、ビデオ会議のパフォーマンス向上、大容量ファイルの転送高速化、スマートホームデバイスの信頼性向上。• 高齢者の自宅での生活をサポートするサービスなどの開発が進む可能性があるとする。

利用には、5G-Aの契約と互換性のあるハンドセットまたはルーターが必要となる。対応機器の選択肢は今後数年間で拡大する予定。

5G SA、5G-Aサービストライアル

米T-Mobile、5G SA、5G-Aにより、ARグラスの体験品質向上をトライアル

T-Mobile、Ericsson、Qualcommは、サンディエゴの5G SA商用網において、Ericssonが提供する5G-Aソフトウェアを用いたトライアルを行った。

5G-Aの機能	<p>Uplink configured Grant*、低遅延機能L4S、高度なスケジューラなどの5G機能をサポートするネットワークスライシング</p> <p>*Uplinkデータ発生時に、基地局によるスケジューリングを待たず、端末が予め設定されたリソースで自発的に送信する機能</p>
端末	<ul style="list-style-type: none">• 分散型空間コンピューティングと低遅延性を備えたQualcommの5G Snapdragon® Mobileプラットフォームにテザリングされた、Snapdragon® AR2 Gen 1プラットフォーム搭載のAI没入型スマートグラスを使用• 端末とインフラの機能を最大化するためHololightのXRストリーミングサービスを利用

T-MobileのCTOは、ネットワークスライシングや遅延最適化などの高度な機能により強化されたT-Mobileの5G SA網が、5G-Aの可能性を最大限に引き出せることをこのトライアルが示したとコメントした。



クラウド事業者との提携拡大

独O2 Telefonica、AWSをネットワークワークロードのクラウドプロバイダーとして選択

昨年7月にAWS上で5G SAコアを展開したO2は、AWSのインフラストラクチャ、サービス、API、ツールをオンプレミス環境に構築するOutpostsラックを通じて、**自社のデータセンターに5Gコアデータプレーンを展開する**。複数年契約の一環として、O2は、**AWS独自プロセッサ上でAWSクラウドにIMS音声を展開する**。O2は、本件の利点として、顧客体験の向上、ネットワークの迅速かつ柔軟な展開、コストの削減などを挙げている。また、O2は、5Gネットワーク全体の監視、ネットワークメトリクスデータの高度な分析による運用簡素化のためにAWSのサービスを利用する。（例：リソースとアプリケーションの監視と管理を行うAmazon CloudWatchや機械学習モデルを大規模に構築、トレーニングするためのAmazon SageMaker）O2は、2024年5月以来、**二つのコアネットワークを運用**しており、そのうちの一つはEricssonが提供し、もう一つはAWSとNokiaが提供している。デジタルメディアプラットフォームのLight ReadingがO2のCTOにインタビューしたところによると、同社は、**ネットワークトラフィックの2割を後者のコアで処理**することを目指しているという。

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

6G

NVIDIA、米T-Mobile、Ciscoらと6G向けAIネイティブ無線NW開発に向け提携

提携目的

6G向けのAIネイティブ無線ネットワークハードウェア、ソフトウェア、アーキテクチャの開発

提携企業と役割・取組

- NVIDIA：通信、コンピューティング、AIを統合し、無線ネットワークの設計、シミュレーション、運用を行うためのプラットフォーム「NVIDIA AI Aerial」をベースに、AIネイティブな無線ネットワークスタックを協業を通じて開発。
- T-Mobile：2024年9月にNVIDIAと共同でAI-RANイノベーションセンターの設立を発表。
- Cisco：モバイルコアおよびネットワークテクノロジーの提供。
- ORAN Development Company(ODC)：AIネイティブなオープンRANの開発。
- 研究開発組織MITRE：エージェント型ネットワーク・オーケストレーションとセキュリティ、ダイナミック周波数共用、センシングと通信などの研究。
- 行政向けコンサル企業Booz Allen Hamilton：AI RANアルゴリズムの開発、AIネイティブの6G無線プラットフォームの保護、性能試験。

NVIDIAのSVPは、AIネイティブとは、ソフトウェア定義の多目的インフラを構築しながら、最初からAIをハードウェアとソフトウェアに組み込むことだと説明し、**信号処理がAIネイティブになることで、周波数効率が大幅に向上する**と説明した。

Copyright(C) 2025 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

6G

北米6G推進団体Next G Alliance、デジタルツインとFWAによる6Gアプリケーションの実現方法を示す白書を発行

デジタルツインの主要なユースケース

1. ネットワーク：仮想レプリカを作成して性能最適化、モビリティ管理の強化、ネットワークスライシングを実現し、予測分析精度と運用効率を向上。
2. 産業オートメーション：予知保全、プロセスシミュレーション、エネルギー管理を実施し、スマート製造業の推進や、生産性と持続可能性を向上。
3. スマートシティ：都市デジタルモデルによる都市計画の改善、リソース最適化、市民の行政参加促進。

固定無線アクセス（FWA）の主なアプリケーション

- FWA as a Service、スマート工場、未利用周波数帯の活用などがあり、教育、ゲーム、eヘルス、公共安全などにも恩恵が及ぶ。
- ミリ波の採用と将来の周波数帯割当により、FWAの利用範囲はさらに拡大し、スマート工場における予知保全、サイバーセキュリティ・ソリューション、中小企業向けのカスタム・ネットワークインフラなどをサポートする。同団体発行の6Gアプリケーションに関する白書には、他にネットワーク対応ロボット・自律システム、パーソナライズデジタル体験、分散センシングを扱ったものがある。

P.2